第７号
平成13年３月30日

生涯学習の窓

富山大学生涯学習教育研究センターニュース

平成13年度へ向けて

平成12年度の公開講座・体験講座・公開授業が、すべて無事終了しました。担当された諸先生方、ならびに講座を陰で支えていただいた多くの皆様に、心からお礼を申し上げます。地域に開かれた大学を目指すために、今後ともより一層のご協力の程、よろしくお願いします。

さて、平成12年度の講座について振り返ってみたいと思います。まず、全16講座を大雑把にジャンル分けして、それぞれの講座数をみた場合、情報処理・パソコン操作に関連するものが６講座と最も多く、人文社会科学系が３講座、自然科学（理工）系が３講座、健康・スポーツ系が３講座、総合的・複合的領域が１講座となっています。次に、公開講座の受講者をどのくらい確保できたか、募集定員と実際の応募者数をみてみますと、平成12年度は全体で472人の募集に対し352人の市民に応募していただき、74.6%の充足率となっています（ジャンルごとでは、情報処理系がほぼ100%、人文・社会・自然系では６割、健康・スポーツ系では８割程度になります)。センターでは今後とも、多彩なジャンルを開講できるよう努力するとともに、がんばってＰＲ活動を続け、講座数、定員充足率ともにアップしていきたいと考えています。

それにしても、パソコンは、ついこの前まで「難しい、高価な」と思われ、敬遠されがちなものでした。ところが最近では、ハード・ソフトともに飛躍的な進歩をとげ、以前よりもはるかに廉価なものとなりました。その結果、私たちにとって身近なものとなり、生活上不可欠な道具と見なす人もかなり多くなりました。このような情報機器の普及の背景から、「パソコンができるようになりたい」と思う市民の皆様も多くなっているようです。

さて現在のところ、平成13年度に実施予定の公開講座がほぼ決定しつつあります。こんどは…とりわけ教育学部の先生方のご尽力により、なんと38もの講座が開講されることになりました！

詳細については、また近日中にセンターニュースを発行し、学内の皆様にお知らせいたします（平成13年度の公開講座は、http://breeze.life.toyama-u.ac.jp/lifelong/extnsn.htm にて紹介しておりますので、ご参照下さい)。

冬はやっぱりスキー！

今回は雪に恵まれた親子スキー教室・盛況のうちに無事終了

センターニュース５号では、平成11年度に予定していた親子スキー教室が無念にも雪不足のために中止となり、受講を予定していた方々が「残念がっていた」と報じました（スケジュールの関係上１月17日に中止を決めましたが、なんとその直後、皮肉にも大雪になり、さらに残念な結果となりました)。



「富山には雪が少なくなった」と、どの方も口にする今日このごろでしたが、ご存じの通り、今年は久々の大雪にみまわれました。おかげで、親子スキー教室を無事開講することができました。講座実施期間中、ときおり吹雪いたり、リフトで寒さに震えたりと、冬山の気分を満喫させられることもしばしばでした。



親子スキー教室は、スキーウェアや用具の取扱、着用の仕方、そしてすべり方... などのスキー初心者の指導ということだけでなく、「親子で」というのがポイントとなる講座です。とかくスポーツは、技術的な向上に主眼がおかれがちです。本講座では、親子の「タテ」の関係（日常生活のしつけや「勉強しなさい」といった）とはひと味違った、とても新鮮な交流を感じさせるものです。「お母さんがこんなにうまく滑れるとは」という表情を見せている子ども、「あの親子はだいぶ上手になっている」と感心させられる場面も、多々みられました。

ともあれ、受講者の感想からうかがってみましょう――

▲子どもの到達度に合わせた講座でよかったです。親子のふれあいが深まり、今後親子だけでもスキーを楽しむことができそうです。

▲久しぶりのスキーで不安でしたが、楽しく受講することができました。子どもははじめてのスキーでしたが、けっこう滑れるようになったこと、スキーを好きになったこと、感謝してます。久々に子どもとゆっくりつきあうことができました。

▲特に、小さな子どもにスキーをどう教えればよいか、ポイントがよく理解できた。子どもどうし、親どうし知り合いになることができた。

▲親として子どもに教えるとき、感情的になることがあるが、他の皆さんと一緒にやっていく中で、せっかちになるのを我慢できるようになった気がします。子どもも、それなりに成果があったので、よかったです。



受講者の皆様に書いていただいた感想をみると、１泊２日のスポーツ講座の疲れはどこへやら、とても生き生きとした様子が伝わってきました。指導を担当していただいた諸先生方、どうもありがとうございました。

沖縄出身で、ロクに雪をみたこともなかったセンターの仲嶺は、今年３度目のスキーをこの講座で体験したばかりでしたが、多くの方のやっかいになりながら、どうにかＶの字で滑れるようになりました。今後とも修行を重ねていき、多くの親子たちに指導できるようになりたいと思います！

第2回大学開放推進懇話会概況報告

これからの富山大学と地域社会の関係づくり

去る平成13年２月26日14時より、事務局５階大会議室にて、第２回富山大学大学開放推進懇話会が開催されました。学長をはじめとした学内の教職員、及び11名の学外有識者をまじえ、活発な論議がなされました。

以下、論議の一部の論点について、かいつまんでご紹介いたします。

【ニーズ】

▲地域には、本当に様々な「学習ニーズ」がある。それら一つひとつに富山大学がこたえようというのか？

それよりむしろ、多少は絞り込んだ形で進めるべきだと考える。大学本来の教育と研究に一番、二番の力を入れて、大学開放を三番目に位置づければよいのではないか。▲大学側が「専門店」方式から「百貨店」

方式に切り替え、間口を広げようとしている姿勢は理解できる。しかし、現在、多様化・個別化が進んでおり、もっとニーズに沿った講座が設けられる方がよいのではないか。学校側の教えたいことと市民の学習したいことが一致しているか、という問題である。市民は、目からうろこが落ちるような、人が食いつくようなものを期待している。開放しているという姿勢、気持ちだけが強いように思えるので、中身の充実をお願いしたい。



【他の生涯学習機関との連携・すみ分け】

▲社会人特別選抜入学の枠は、圧倒的に経済学部に集中している。理系では難しいのかもしれないが、もう少し各所の窓口を広げる必要があるのではないか。▲大学開放とその他の生涯学習機関の事業の「すみ分け」がなされるべきだろう。県の方も、民間カルチャー・センターと競合しないという原則をたててやっている。県の方では、一般教養的な学習機会を提供しているが、大学の公開講座と内容が重なっているところがあるような気がするが、今後おのずと整理されてくるだろう。いずれにせよ、重複という問題はお互い常に意識していくべきものであると考える。▲他の生涯学習機関と連携し、ステップアップ講座を提供してほしいという声があり、県でも前向きに受け止めているところである。今は量的なカウントで単位を認定しているが、何をどのような形で学んできたのか、まだ何が足りないのか、生涯学習の評価制度を改善する必要を感じている。高等教育機関と連携して、そのような生涯学習体系の整備を進めていきたいと考えており、よろしくお願いしたい。

【リカレント】

▲企業は企業で技術的訓練をおこなっているのが現状である。大学開放の事業について説明を受けたが、これ以上どこをよくされるのか、何が問題なのか、という点があまりわからない。▲近年、企業のリストラなどにより失業した人が、新しい職場を見つけるために学習する機会が必要になる。また、商用に電子メールが普及したせいで対応できなくなり、緊急に情報教育を求めるケースもある。大学がリカレントをおこなう場合、そうしたニーズに一致するものを展開できるかどうかだろう。

【ＰＲ方法をめぐって】

▲委員になってはじめて、こんなにたくさんの講座があり、ずいぶん開かれた大学として努力されていることを知った。ただ、難しいことなのかもしれないが、学習しようと思っている人たちに正確に情報が伝わっていない面があるのではないか。例えば、附属図書館を一般市民が利用できることを知っている人はきわめて少数であろう。



【企業連携】

▲大学開放が地域とどう結びつくか、というのは重要だが、地域から何を吸収するかという側面があってもよいのではないか。富山にこんないい企業がたくさんあると知ってもらうためにも、できるだけ地域企業のトップが大学で講義する機会を増やすよう、提案したい。▲マスコミの立場からいえば、富山大学には２～３人、タレント教授が必要である。それに、定期的な番組出演等を依頼すると、学内の手続きが大変難しい。こうした点を改善できないものか。

これらの中には、富山大学の大学開放に対する厳しい意見、今後の多くの課題を示唆するものも含まれています。学内・学外を問わず、発展的な論議を進める中で、一つひとつ前進していきたいと考えます。

なお、懇話会の詳細については、『生涯学習教育研究センター年報』第３巻に掲載されておりますので、ご参照下さい。

第１回生涯学習教育研究センター自己点検評価委員会開催

去る３月26日（月）、午前10時30分より、生涯学習教育研究センター第１回自己点検評価委員会が開催され、７人の委員が出席した。

委員長の宇井（センター長）により、以下の議事が進められた。

まず、当センターがおこなう事業実施状況について、先述の富山大学大学開放推進懇話会の資料に基づいた報告・説明がおこなわれた。次に、全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について、大学評価・学位授与機構の評価を受けることについて説明があった。これに対する富山大学全体の対応として、富山大学自己点検評価委員会がまとめをおこなうことになっており、当センターとしては、そのための資料を作成し供する旨報告があった。

続いて、委員長より、生涯学習教育研究センター自己点検評価委員会の内規に基づき、種々意見交換がおこなわれる等、審議が進められた。

人事異動

■お世話になりました

このたび人事異動の内示があり、事務を執られていた赤井さんと上楽さんが、それぞれ人事課と経理課の方へ異動されることが予定されています。赤井さんは４年間、上楽さんは２年間、大学開放の業務に尽力していただきました。お二人とも、長い間本当にありがとうございました。新しい部署でのご活躍をお祈りいたします。

■よろしくお願いします

新しくセンターに来ていただくのは、これまで研究協力課専門職員としておつとめになった今井さん、総合情報処理センターにおつとめになっていた五十嵐さんが予定されています。今後とも、よろしくお願いします！

会議報告

- **第１回富山広域学習圏の広域学習サービス連絡会議**
  開 催 日｜平成12年６月22日（木）　14時00分～16時00分
  開催場所｜富山県教育文化会館
- **第２回富山広域学習圏の広域学習サービス連絡会議**
  開 催 日｜平成13年１月24日（木）　14時00分～16時00分
  開催場所｜富山県教育文化会館
- **第12回大学開放の在り方に関する研究会**
  開 催 日｜平成12年11月１日（水）
  開催場所｜三重県津市センターパレスホール
- **第６回生涯学習実務者協議会**
  開 催 日｜平成12年11月２日（木）
  開催場所｜三重県津市センターパレスホール
- **第２回生涯学習教育研究センター公開講座専門委員会**
  開 催 日｜平成12年11月27日（月）　10時45分～11時50分
  開催場所｜生涯学習教育研究センター会議室
- **第３回生涯学習教育研究センター公開講座専門委員会**
  開 催 日｜平成13年１月22日（月）　10時45分～12時25分
  開催場所｜生涯学習教育研究センター会議室
- **第２回富山大学大学開放推進懇話会**
  開 催 日｜平成13年２月26日（月）　14時00分～16時00分
  開催場所｜富山大学事務局大会議室（５Ｆ）
- **第１回生涯学習教育研究センター自己点検評価委員会**
  開 催 日｜平成13年３月26日（月）　10時30分～11時05分
  開催場所｜生涯学習教育研究センター会議室



発行：富山大学生涯学習教育研究センター／〒930-8555富山市五福3190／TEL076-445-6956／FAX076-445-6960